

2013 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	商学部	身分	教授
氏名	徳間 伸一		
NAME	Shinichi Tokuma		

1. 研究課題

(和文) 外国語のリスニングにおけるトップダウン情報の有用性

(英文) The importance of top-down information in L2 listening

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度)

(和文)

言語聴覚における高次情報の重要性は常に言われていることだが、外国語における高次情報の役割、特に日本人話者が英語を聞き取る際の役割に関しては、まだまだ解明されていない点が多い。本研究では、この点に注目し、高次情報の役割について解明することを試みた。具体的には日本人が英語を聞き取る際に、いかに母国語である日本語の音声キューが英語聴覚に転移するかということ、雑音下の Clear Speech (明瞭になるよう話し手が心掛けた音声) を用いて調査した。現在のところの /p/-/b/ の弁別実験に関する聴覚データ分析では、日本人にとって英語の /b/ の聞きわけの方が困難である、また韻律に関する弁別や、日本人にとって難易度が高いとされている /r/-/r/ の聞きわけと違い、/b/ の聴覚スコアは海外経験のない学習者でも容易に上昇が可能でありそうだ、ということが分かっている。各年度の研究内容は以下の通り。2013 年度は LUCID Database の Clear Speech のうち、2 種類のタイプの音声をダウンロードし、それを基に雑音レベルを操作したものを被験者に聞かせる、というパイロット実験を行い、その成果を査読つき論文として発表した。また、母国語話者の音声資料採集、文献収集、LUCID データベースの発案・管理者である UCL の Prof. Hazan との研究打ち合わせ、等の研究目的でイギリスに研究出張した。2014 年度は本実験に向けたデータ作成と実験実行、パイロット実験のさらなるデータ分析等を継続して行い、再び研究出張を行った。現在、実験のデータ分析が終わり、査読つきの国際会議論集に論文を提出しているところである。

(英文)

This study investigated the influence of top-down L1 information on L2 segmental perception, by looking at the perception of English phonemes in noise by Japanese learners of English, using clear speech (obtained from LUCID database) as stimuli in perceptual experiments. The results presented in Interspeech demonstrated that, when presented in noise, the strong effect of Japanese /b/ on the perception of English /b/ is observed. A research paper on subsequent research has been submitted to PTLC.

